

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 中間評価

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<p>○学力向上では、3年生、6年生の算数TT授業を始め、放課後学習の取組、家庭学習への保護者の協力を行ってきたが、県学習状況調査やCRT検査で県平均に達していない学年もある。来年度は、校内研究と合わせ、教員の指導技術を高められるよう方向転換をしていく必要がある。</p> <p>○心の教育に関しては、2回のQ-Uアンケート実施と調査分析、心のアンケートと面談、全職員による一日観察日、人権週間の取組等を行い、児童に対し、積極的な支援を行ってきた。ほとんどの児童は、楽しく学校生活を送れているが、それ以外の子どもたちや不登校傾向にある児童への支援については、外部の機関との連携をさらに深めていく必要がある。</p> <p>○地域とともにある学校を目指し、コロナ禍ではあったが、感染拡大縮小期に総合的な学習の時間や道徳の授業にボランティアティーチャーとして、地域の方を招くことができた。児童は郷土芸能である面浮立を間近に見たり、面浮立にかけられる思いを聞いたりして、郷土愛をさらに深めることができた。</p> <p>○業務改善、教職員の働き方改革の推進については、年々成果が見られるようになったが、時間外勤務時間に個人差が見られる。外部講師の効果的な活用や他業務の効率化を図る等、働き方改革の視点から業務を改善することが課題である。</p>
2 学校教育目標	一人一人の子供の個性を磨き、しなやかにたくましく生きる子どもの育成を図る

3 本年度の重点目標	<p>◎主体的・対話的で深い学びを実現させる魅力的な授業づくり【教職員の資質向上・実践授業研究】</p> <p>◎児童一人一人に響く「心の教育」の充実【道徳教育、心の海PJ】</p> <p>○自主的な運営力とたくましい心身の育成【学びの里PJ・体の嶺PJ】</p> <p>○ふるさと「七浦」を愛する心の育成【体験学習・地域連携】</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				●学力の向上	<p>●全職員による共通理解と共通実践</p> <p>○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践</p>	<p>●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上にする。</p> <p>○家庭学習に取り組む児童の割合を95%以上に目標にする。</p> <p>○児童アンケートで算数科の授業が楽しいと回答する児童の割合を80%以上にする。</p>	<p>・授業の進め方(見通しのもとせ方など)を共通理解し、授業中に、児童が自分の考えをもったり、考えを広げ深める話し合いを行ったりする時間を確保する。</p> <p>・職員間で宿題の内容や量について共通理解を図る。</p> <p>・校内研究を中心に算数科の授業展開を工夫し改善を行う。</p>	B	・授業の進め方については、夏休み中に校内研究で共通理解を図った。 <p>・学習状況調査の結果を踏まえ学力向上対策評価シートを見直し、取り組みの追加修正を行った。</p> <p>・7月の児童アンケートでは、算数科の授業が楽しいと回答している児童は85%を超えていた。</p> <p>・宿題については職員間での共通理解を図る。</p>	
●心の教育	<p>●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動</p> <p>◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動(志を高める教育)</p>	<p>○児童アンケートで80%以上の児童が「相手がいやがることをしない、言わない」の項目で肯定的な回答をする。</p> <p>○キャリアパスポートの年間振り返り、低学年「初めてのことにチャレンジ…」、中高学年「将来の夢や目標に…」の項目で、肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。</p>	<p>・各クラスでのめあてを決めて取り組む。</p> <p>・縦割り班活動や人権集会を開き、温かい児童同士の関係作りを行う。</p> <p>・授業参観で、年1回「ふれあい道徳」を実施し、地域や保護者に公開する。</p> <p>・全学年キャリアパスポートを作成し、学期や行事など節目毎にふり返る機会をもつ。</p> <p>・「チャレンジすること」「夢・目標をもつこと」が自分を成長させるということを日々の生活や集会などで機会をとらえて伝えていく。</p>	B	・心のめあての設定はできており、今後も各学級で継続してめあてを意識して取り組んでいく。 <p>・1年生を迎える会及び春遠足を通して、縦割りでの児童の関係づくりをスタートさせることができた。</p> <p>・「ふれあい道徳」は後期に実施予定。</p>					学びの里プロジェクト 道徳推進教師
●健康・体づくり	<p>●「運動習慣の改善や定着化」</p> <p>●安全に関する資質・能力の育成及び危険回避能力の向上</p>	<p>●児童アンケートで80%以上の児童が「体を動かすことが楽しい」と答える。</p>	<p>・今年も全校でスポーツチャレンジに取り組んだり、年間を通して継続的に運動する意識を高められるように呼びかけたりする。</p> <p>・低学年、中・高学年に応じて「交通安全教室」を実施して、歩行の仕方や自転車の乗り方のマナー等を身につけさせる。</p> <p>・集会等の折にも、随時指導していく。</p>	C	・屋体みに外遊びを進める呼びかけや、各クラスでのスポーツチャレンジの取り組み、水泳記録会も多く学年が取り組めた。 <p>・全校にスポーツチャレンジの呼びかけが全てできなかった。体育委員会を中心に全校に呼びかけていく。</p>					体の嶺プロジェクト
●地域連携	<p>○開かれた学校づくり</p>	<p>○学校運営協議会を年3回開催し、それぞれの意見や評価をもとに、地域やPTA、学校が協働することで、双方向の連携を行う。</p>	<p>・学校長の経営方針や方策、教育カリキュラムに基づいた、七っ子サポート隊を活用した取り組みを学校だよりやホームページ等で紹介し、保護者や町民に知らせる。</p> <p>・児童が地域の一人としての意識を高めるために行事の一端を担う機会(例:町民運動会参加のよびかけなど)を設けるようにする。</p>	B	・6月には、不審者対応の避難訓練を実施した。また、低学年、中・高学年に応じて「交通安全教室」を実施して、歩行の仕方や自転車の乗り方のマナー等随時指導してきた。					校長、教頭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	<p>●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減</p>	<p>○職員の時間外勤務を月平均25時間以内</p> <p>○年休取得日数12日以上</p> <p>○定時退勤日(金曜日)の設定</p>	<p>・定時退勤日(毎週金曜日)を設定し、時間外勤務の削減を図る。</p> <p>・年次有給休暇を計画的に昨年度実績以上とるように呼びかける。</p> <p>・過去に作成したプリントやファイルを共有しやすいようにフォルダを整理する。</p>	B	・昨年度よりも、全体的に年次有給休暇取得が進んでいる。 <p>・4月～8月までの時間外勤務月平均時間は22.7時間である。</p> <p>・教材共有フォルダを学年、教科ごとに作成し、使えるデータをいれるようにしている。</p>					校長、教頭

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				○心の教育	<p>●いじめの早期発見、早期対応体制の充実</p>	<p>○心のとびらアンケート、QUアンケートなどで85%以上の児童が「学校が楽しい」と答える。</p>	<p>・Q-Uアンケート等をもとに、担任による「個人面談週間」を設け、いじめの早期発見に努める。</p> <p>・職員会議等を通して職員間で情報交換を行い、組織的に対応する。</p> <p>・1日観察日を設け、教職員全員で児童の様子を観察する。</p> <p>・毎月末に心のとびらアンケートを取り、いじめの早期発見に取り組む。</p>	B	・6月にQ-Uアンケートを取り、8月に分析の研修会を行って、困り感を持つ児童の早期発見につとめ、学級づくりに活かすことができた。 <p>・心のとびらアンケート(5月、8月)、いじめアンケート(6月)をとり、いじめの早期発見に取り組んだ。</p> <p>・1日観察日、相談週間は後期に実施する予定。</p>	
○特別支援教育の充実	<p>○教員の専門性、意識の向上と一人ひとりの児童のニーズに応える教育の推進</p>	<p>○定期的な支援を必要とする児童の共通理解(職員会議)</p> <p>○特別支援に関する専門性が向上した教員85%以上</p>	<p>・職員間の情報共有とケース会議の実施</p> <p>・特別支援に関する研修会、巡回相談の実施</p> <p>・個別支援計画、個別指導計画の確実な作成と保護者との共有</p>	B	・支援を必要とする児童共有やケース会議などは、必要に応じて実施してきた。 <p>・巡回相談に来てもらい、支援を必要とする児童についての関わり方などを学ぶことができた。</p> <p>・個別支援計画は、夏休み前の個人面談で保護者と共有できた。</p>					森山、諸藤

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>・</p> <p>・</p> <p>・</p>
----------------	----------------------------